



三春中学校だより

第 46 号

発行日 平成 30 年 1 月 28 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【中学校で新たな生活を！ ～小・中学校特別支援学級の交流会を開催しました。～】



11月14日（水）に、特別支援学級体験入学・交流会を実施しました。来年度入学予定の児童のみなさんが、来年度、自分たちが生活する予定の三春中学校を見学すると共に、そこで生活している中学生と交流をもつことで、少しでも、中学校生活に見通しをもち、不安を軽くしてスムーズに中学校生活に移行できることをねらいとした活動でもあります。

児童のみなさんは、校舎見学の後、授業見学や学習体験をしました。その後、ランチルームに移動し、自己紹介やゲームをするなどして、中学生との交流の場を共有していました。迎える側の中学生も、歓迎の気持ちをたくさんもって、さまざまな準備を

したり、当日も説明役や案内役がんばったりしていました。

三春中学校は、自分のことと同じくらい他の人のことを大切に、集団生活の中で、一人ひとりが自分のこととみんなのことを一生懸命考え、公共の場としての中学校生活を送る中で、将来、社会の一員として、みんなと仲良く、自立した存在となれるようがんばるところです。

残りの小学校生活を今以上に充実させ、来年4月の入学を心よりお待ちしております。

【アンサンブルコンテスト参加者によるアンサンブル披露！ ～あと2週間がんばれ！～】

11月26日（月）の6校時には、合唱・合奏アンサンブルコンテストに参加する生徒たちによる演奏披露会が行われました。

合唱アンサンブルコンテストは、12月8日（土）に矢吹町文化センターにおいて、吹奏楽部アンサンブルコンテストは12月8日（土）・9日（日）の両日、須賀川市文化センターにおいて行われます。

校舎内に、温かな歌声や優しい楽器の音が流れる学校が願いの一つでもありますというお話もいたしました。都合で演奏できなかったみなさんも含め、コンテストまでのあと2週間で充実させて、“アンサンブル”という言葉にふさわしい、すばらしい演奏ができるよう願います。



【要田駅清掃、JR東日本仙台支社長様より表彰！～郷土を思い、ふるさとに生きる。～】

11月24日（土）の朝は、三春中生と船引中生による要田駅清掃の日でした。

朝7時に集合し、いつものように駅の内外を清掃し、自分たちがお世話になっている、お世話になるであろう地域にある要田駅の清掃活動に取り組みました。

その清掃終了後に、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社長様よりJR磐越東線小野新町駅長様を介して感謝状の贈呈式が行われました。要田中の時代から、長年、要田駅清掃に携わってくれた個人や団体のみなさんに感謝状を贈呈する制度があり、その制度に、要田地区に住む本校と船引中学校の生徒の団体『要田駅を掃除し



隊』が推薦をうけ、表彰される運びとなりました。

これぞ、三春中学校が取り組むべき郷土学習・三春学習だと感じました。三春町や田村市という子どもたちが暮らす郷土『三春』『田村』、心のふるさとである『要田』地区、自分たちが生まれ育った心のふるさと『要田』を愛し、そのふるさと『要田』を大切にするために自らが『駅清掃』という形で動き、恩返しをする。そのことで、ふるさとに対する愛着がますます深まり、そんなふるさとに自信と誇りをもつ。『三春』『田村』『要田』の将来を担うのは、今、目の前で淡々と心を込めて清掃活動に取り組むこの子どもたちです。

お休みのところや部活動に行く前に、駅の清掃に熱心に取り組んできた生徒のみなさん、お疲れ様です。また、要田中時代よりご指導いただいた伊東実先生をはじめとした、船引中学校、三春中学校の各先生方、ありがとうございました。そして、何より、『要田駅を掃除し隊』のみなさん、おめでとうございます。これからも心のふるさと『要田』をますます大切にしていってください。



【国際化社会にむけて！ ～挑戦すること、表現すること、理解すること。～】

11月25日（日）に、三春交流館『まほら』において、三春町国際交流協会主催『第15回三春町中学生英語弁論大会』が行われました。

本校より8名、岩江中より4名の参加者のもと、各校より選抜された弁士のみなさんが熱弁を振っていました。

学習、係活動、部活動等で何かと忙しい中であって、本校よりの8名の生徒のみなさんは、表情、そして、ジェスチャー豊かに流ちょうな英語弁論を披露していました。

いつもの郡山女子大のダニエル先生ほか2名、計3名の審査員のみなさん、それぞれの弁士さんの出来映えがすばらしく、採点は僅差であり、審査は困難を極めたそうです。各学年の3名の英語科指導の先生方、ありがとうございました。

まずは、そんな挑戦する姿勢をすばらしいと思います。異文化である英語という言葉を用いて表現しようとする表現意欲もまたしかり。英語が好きで、英語はこれからの社会にかかせないという国際化社会に対する理解など、取り組んでみたからこそ感じられ、身につけられることがあります。

三春中生徒のみなさん、よくがんばりました。

さまざまな挑戦の機会があります。他の三春中のみなさん、次こそはいかがですか。

